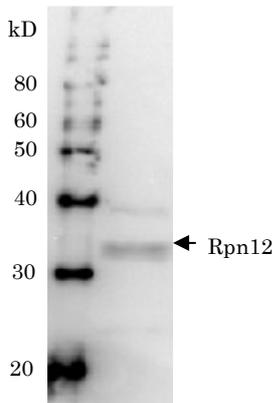


## 抗 Rpn12 (*S.cerevisiae*) 抗体, ウサギポリクローナル

商品コード	62-209
容量	50 µl
保存	-20 °C
濃度	N/A
バッファー	PBS- with 1 mg/ml BSA, 0.09 % sodium azide, 50% glycerol
純度	ウサギ抗血清から Affinity 精製した
抗原	大腸菌に発現させたリコンビナント酵母 Rpn12
アイソタイプ	ウサギ IgG
反応性	<i>S. cerevisiae</i> Rpn12 他の種については試されていない。
アプリケーション	1) ウェスタンブロッティング (1/5,000~1/10,000 希釈) 2) 免疫沈降 その他の用途は試されていない。
背景	プロテアソームはユビキチンで修飾されたタンパク質を分解する酵素である。ユビキチン-プロテアソームによる分解システムは、傷害を受けたりミスフォールドしたタンパク質を除去するのみならず、細胞周期制御、免疫応答、シグナル伝達といった細胞内の様々な働きに関わっている(文献 1)。活性型の 26S プロテアソームはタンパク質分解実行ユニットである 20S プロテアソームの両端に、それを制御する 19S 複合体が会合した巨大な分子複合体である。19S 複合体はさらに base (基部) と lid (蓋部) に分けられる。Rpn12 は lid の non-ATPase サブユニットのひとつで、基部の ATPase サブユニットである Rpt1 と相互作用する。Rpn12 と Rpt1 の二重変異株では致死的となり、Rpn12 と Rpt1 の強い相互関係が示唆される。Rpn12 と Rpt1 の二重変異株では 26S プロテアソームの機能が完全に阻害される。
Data Link	SGD <a href="#">RPN12/YFR052W</a>
画像	 <p>図 1 <i>S. cerevisiae</i> 粗抽出液でこの抗体を用いたウェスタンブロッティングを行い、Rpn12 (32kD) を検出した。</p>
文献	<p>この抗体は文献 2 で用いられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Hershko A and Ciechanover A "THE UBIQUITIN SYSTEM." <i>Annu. Rev. Biochem.</i> <b>67</b>, 425-479 (1998) PMID: <a href="#">9759494</a></li> <li>Takeuchi J and Toh-e A "Genetic evidence for interaction between components of the yeast 26S proteasome: combination of a mutation in RPN12 (a lid component gene) with mutations in RPT1 (an ATPase gene) causes synthetic lethality." <i>Mol Gen Genet</i> <b>262</b>:145-153 (1999) PMID: <a href="#">10503546</a></li> </ol>
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	

**関連製品:** 62-209 抗 Rpn12(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギポリクローナル

#62-201 抗 Rpn3(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギ抗血清

#62-203 抗 Rpn5(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギポリクローナル

#62-205 抗 Rpn7(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギポリクローナル

#62-207 抗 Rpn9(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギポリクローナル

#62-211 抗 Nob1(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギポリクローナル

#62-213 抗 Nas6/p28(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギポリクローナル

#62-215 抗 Tem1(*S.cerevisiae*)抗体、ウサギポリクローナル